

香川県立保健医療大学リポジトリ

香川県内の病院に就職した看護師の進路志向
—400床以上の病院に勤務する就職後5年以内の看護師を対象とした調査—

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内海, 知子, 吉本, 知恵, Utsumi, Tomoko, Yoshimoto, Chie メールアドレス: 所属:
URL	https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/254

香川県内の病院に就職した看護師の進路志向 —400床以上の病院に勤務する就職後5年以内の看護師を対象とした調査—

内海 知子^{1)*}, 吉本 知恵¹⁾

¹⁾香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

Career Aspirations of Nurses Working in Hospitals in Kagawa Prefecture — A Survey Involving Nurses Working for less than 5 Years in Hospitals with more than 400 Beds—

Tomoko Utsumi^{1)*}, Chie Yoshimoto¹⁾

¹⁾Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences

要旨

香川県内の病院において就職後5年以内の看護師の進路志向について明らかにすることを目的に、独自に作成した調査票を用いた郵送質問紙調査を行った。400床以上の9病院に勤務する看護師319名から回答が得られ、記述統計、出身地と進学先別および卒後年数別に進路選択動機等についてクロス集計を行った。結果、5割以上が「母親」に進路について相談し、県内就職の決定は「就職活動時」、「高校生の時」が多かった。理由は「家族や友人の近くで生活したい」が多かったが、「県外出身」では進学先にかかわらず「香川県の風土や文化が好き」、「県内出身・県外進学」では「親のすすめ」も上位であった。就職する病院の選択では、「県内出身」では「立地条件」を、「県外出身」では「福利厚生」や「給料」を重視する傾向があった。大学としては県内施設と連携し、香川県と看護の魅力が実感できる教育内容を充実させることが必要である。

Abstract

With the aim of identifying career aspirations of nurses working for less than 5 years in hospitals in Kagawa Prefecture, we conducted a mail survey using a questionnaire developed by us. Responses were obtained from 319 nurses from 9 hospitals with more than 400 beds. Cross tabulation was used to summarize descriptive statistics of the data, and to determine the relationship of subjects' reasons for selecting their career path with their hometown, the type of school they attended, and year of graduation.

As the results, more than 50% of the subjects had sought advice from their “mother” about their career path, and many of them decided to work in the prefecture “when they were looking for a job” or “when they were high school students”. Concerning the reasons for selecting hospitals in Kagawa Prefecture, “wishing to live near my family or friends” accounted for the most. The number of subjects who responded that “I like the historical landscape and culture of Kagawa Prefecture” was high among ‘subjects from outside the prefecture’ irrespective of the place they had studied, and that of subjects who responded that “being recommended by my parents” was also high among ‘those from inside and outside the prefecture’. Concerning the reason for selecting the current workplace, ‘subjects from inside and outside the prefecture’ were likely to put emphasis on geographical conditions and “benefit packages”/“pay”, respectively. The results suggest the need for universities to promote cooperation with institutions in the prefecture, and improve educational content to help students realize attractive features of this prefecture.

Key Words: 看護師 (nurse), 進路志向 (career aspiration), 地元志向 (hometown-oriented)

*連絡先: 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 内海 知子

*Correspondence to: Tomoko Utsumi, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences, 281-1 Hara, Mure-cho, Takamatsu, Kagawa 761-0123, Japan
E-mail: utsumi@chs.pref.kagawa.jp

はじめに

現在、香川県は人口減少に直面しており、少子化の進行と県外への転出が転入より多い状態が続いていることが原因と考えられている。転出が転入を上回る「社会減」の理由について尋ねた県内に住む20歳以上の人への調査（複数回答）では、「県内で希望するような職業につけない」と75%が回答しており¹⁾、県内の若者の転出を引き留めるのは容易ではない。このようななか、看護職の就職については、平成26年度のナースセンターの求人倍率は過去10年間で最高となっており、特に職種では看護師、雇用形態では常勤において3倍を超えており²⁾、希望する地域、施設での就職を容易にしている側面がある。

看護学生の進路について、東北地方の1看護系大学における調査³⁾で、勤務予定地が関東である学生と東北である学生を比較すると、就職する病院を選択する際に重視した内容では両親の期待や実家から近い、友人がいるなどが東北に就職する学生のほうが有意に高いなど、地元志向の学生とそうでない学生では、病院選択において重視する視点が異なることを示されている。さらに大井ら⁴⁾は、層化無作為抽出した病院において、1年以上就業できた看護師を対象とした就職先選択に関する調査を行っている。その結果、居住希望地域と病院所在地の適合度、医療機関の果たすべき社会的役割・機能への価値観とその病院が組織として持つ特徴の適合度、確実な身分保障と得心のいく労働条件の有無などの13の選択基準を見出している。学部を特定しない大学生の就職に関連した研究^{5) 6)}では、企業選択において仕事の属性の重要度は、場所、年収、安定度、福利厚生順であり、大学生の大学（国公立・私立）、性別、所属学部（理系・文系）、学年という属性別にみてもこの4つの重要度に差はないことが示されている。さらに、地元志向性と年功要素が強いこと、特に社会的価値志向性の要因である経済志向性の高い大学生ほど実力主義ではなく年功要素を重要と考えており、地元志向性と大企業を好む結果であったと述べられている。しかし、地元志向の強い大学生は就職活動にネガティブな意識をもつ傾向が強いため、地元志向の若者の就職力を高める必要性を指摘するものもある⁷⁾。以上の状況を踏まえると、人口減少が進む地方にとって、地元志向の若者が主体的に活躍できるだけでなく、県外出身者をも引き付けることができる教育と企業の連携が求められていると言える。

従来、進路選択の研究は、進路指導やキャリア形成教育などに活用することを目的としており、特に看護系大学等では特定の地域や設置主体においてそこに所属する学生に焦点化して行われてきた。そのため、就職した人に対して過去の進路選択を調査した研究は大井ら⁴⁾を除いては見当たらなかった。しかし、どのような進路志向の人が、その地方の病院に就職しているのかを明らかにすることは、地域が求める人材育成のための教育内容お

よび就職先である病院等施設との連携への示唆を得ることにつながると考えた。

研究目的

香川県内の病院において、就職後5年以内の看護師の進路志向について明らかにすることである。

研究方法

1. 研究デザイン

郵送質問紙調査による量的記述研究デザイン。

2. 対象者

香川県内の400床以上の病院に勤務する就職後5年以内の看護師とした。

3. データ収集方法

まず、400床以上の10病院⁸⁾看護部門責任者に文書あるいは口頭により協力依頼を行い、承諾を得た9病院に勤務する看護師を対象とした。調査票を配布してもらえ人数を病院ごとに示してもらい、調査票を郵送した。対象者には、自由意思により研究協力を判断してもらい、協力できる場合は記入した調査票を返信用封筒に入れて直接郵便ポストに投函してもらった。

4. 調査期間

平成28年1月中旬～2月末日。

5. 調査内容

文献をもとに独自に作成した無記名の自記式調査票を用いた。内容は、①属性（職種、年齢、性別、卒後年数、勤務年数、県外で働いた経験の有無、出身地、資格取得した進学先の所在地）、②進学先選択理由、③現在就職している病院の選択動機、④香川県内での就職を決めた時期と理由、⑤進路に関する相談相手、⑥進路に関する情報の入手方法である。さらに②、④のうち理由、⑤、⑥については重視した順位を第3位まで、③は重視した程度を4段階で、重視した順位を第5位まで回答してもらった。

6. 分析方法

まず、調査項目のうち①属性、②進学先選択理由、④香川県内での就職を決めた時期と理由、⑤進路に関する相談相手、⑥進路に関する情報の入手方法については度数と割合を求めた。③現在就職している病院の選択動機について重視した程度は、平均値と標準偏差を求めた。

次に、②、④のうち理由、⑤、⑥については、重視した順に第1位に3点、第2位に2点、第3位に1点を加点し、また③現在就職している病院の選択動機について重視した順位には、第1位に5点、以下同様に第5位に1点を加点し、項目毎に合計点と得点率を算出した。

さらに、出身地・進学先別に分けた“県内出身・県内進学”、“県内出身・県外進学”、“県外出身・県内進学”、“県外出身・県外進学”の4群および卒後年数と、②、

③, ④, ⑤, ⑥とについてクロス集計し度数と割合, 順位づけした項目では合計点と得点率を求めた。以上において, 欠損値は質問項目ごとに除外した。記述統計量の算出には, マイクロソフト社Excelを用いた。

倫理的配慮

文書で各病院の看護部門責任者に協力依頼を行い, 同意が得られた施設に対し調査を依頼した。その際に, 調査協力を強制することのないよう対象者へ調査票を配布してもらった。対象者には, 調査の目的, 個人情報の取り扱いおよび研究資料の保存の方法と期間, 学会等への発表について, 調査票の前文で説明し, 研究協力は自由意思で決定してよいこと, 無記名調査であること, データ処理は統計的に行うため個人が特定されることはないこと, 病院における評価等に一切影響しないことを明確に示した。回答後は, 対象者に直接投函してもらい, 調査票が返信されたことで調査協力の同意が得られたものとした。なお, 本研究は香川県立保健医療大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号174)。

結 果

1. 研究対象者の概要

調査票の配布は726部であり, 回収は341部(回収率47.0%), 有効回答数は319部(有効回答率93.5%)であった。

性別は, 男性36名(11.3%), 女性283名(88.7%)であり, 県外での就労経験がある者34名(10.8%), 現在の勤務病院以外での県内での就労経験がある者28名(8.8%)であった。また, 年齢, 性別, 卒後年数, 現在の病院での勤務年数, 出身地(県内・県外)と進学先(県内・県外)を表1に示す。

2. 進路志向

1) 全体の傾向

まず, 資格を取得した進学先を選択した理由について, 最も多かったのは「将来の志望職業と一致している」68名(25.0%), 次いで「自分の学力水準にあっている」43名(15.8%), 「家庭の経済事情が許せる」42名(15.4%)であった。さらに第3位までを選択してもらい加点した合計点からみると, 「将来の志望職業と一致している」306点(18.8%), 「家庭の経済事情が許せる」248点(15.2%), 「自分の学力水準にあっている」241点(14.8%)の順であった。

次に, 香川県内に就職することを決めたことについて, 時期は「就職活動の時」124名(38.9%), 「高校生の時」68名(21.3%), 「大学等に在学中」65名(20.4%)であった。理由は, 「家族や友人の近くで生活したい」130名(44.1%), 「就職前に住んでいて生活に慣れている」56名(19.0%), 「就職したい病院があった」39名

表1 対象者の概要

n=319			
属性	内訳	人数(名)	割合(%)
年齢	20~24歳	150	47.0
	25~29歳	120	37.6
	30~34歳	20	6.3
	35~39歳	22	6.9
	40歳以上	7	2.2
性別	男	36	11.3
	女	283	88.7
卒後年数	1年	56	17.6
	2年	75	23.5
	3年	65	20.4
	4年	61	19.1
	5年以上	62	19.4
現在の病院での勤務年数*	1年	67	21.2
	2年	98	31.0
	3年	65	20.6
	4年	47	14.9
	5年	39	12.3
出身地	香川県内	229	71.8
	香川県外	90	28.2
進学先	香川県内	237	74.3
	香川県外	82	25.7
出身地と進学先の組合せ	県内出身・県内進学	186	58.3
	県内出身・県外進学	43	13.5
	県外出身・県内進学	51	16.0
	県外出身・県外進学	39	12.2

*現在の病院での勤務年数のみn=316

(13.2%)であり, 上位3位までを選択してもらい加点した合計点からみると, 「家族や友人の近くで生活したい」547点(30.9%), 「就職前に住んでいて生活に慣れている」331点(18.9%), 「友人や交際相手の近くで就職したい」212点(12.0%)の順で高かった(表2)。

進学・就職等の進路に関しての相談相手は, 「母親」160名(51.0%), 「友人」66名(21.0%), 「高校や大学等の先生」44名(14.0%), 「父親」8名(2.5%), 「その他」36名(11.5%)の順であった。また, 進路選択のための情報入手で重視したものは, 「ホームページ」193名(63.5%), 「オープンキャンパスやインターンシップ, 職業体験」190名(62.5%), 「パンフレット」169名(55.6%)の順であり, 上位3位まで選択してもらい加点した合計点では「オープンキャンパスやインターンシップ, 職業体験」432点(23.7%), 「ホームページ」396点(21.7%), 「パンフレット」308点(16.9%)の順で, そのあとに「高校や大学等の先生」272点(14.9%), 「進路先の先輩」238点(13.0%)と続いた。

現在就職している病院を選択するときに重視した事柄とその程度について, 最も重視している程度が高かったのは「香川県内にいること」(平均値 $3.30 \pm$ 標準偏差 0.92), 次いで「教育環境の充実」(3.07 ± 0.76), 「給与」(3.05 ± 0.73)の順であり, 重視している程度が最も低かったのは「奨学金の免除条件」(1.78 ± 1.10), 次いで

表2 出身地と進学先（県内あるいは県外）別にみた県内就職を決めた理由

	全 体 (n=295)	県内出身・県内進学 (n=179)	県内出身・県外進学 (n=38)	県外出身・県内進学 (n=47)	県外出身・県外進学 (n=31)
第1位	家族や友人の近くで生活したい	家族や友人の近くで生活したい	家族や友人の近くで生活したい	就職前に住んでいて生活に慣れている	就職したい病院があった
合計点 (得点率)	547 (30.9%)	357 (33.0%)	89 (39.0%)	81 (28.7%)	57 (30.6%)
第2位	就職前に住んでいて生活に慣れている	就職前に住んでいて生活に慣れている	就職直後はとくに家族などの支援を得たい	家族や友人の近くで生活したい	家族や友人の近くで生活したい
合計点 (得点率)	331 (18.9%)	218 (20.3%)	43 (18.9%)	54 (19.1)	50 (26.9%)
第3位	友人や交際相手の近く（あるいは同じ病院）で就職したい	友人や交際相手の近く（あるいは同じ病院）で就職したい	親の勧め	友人や交際相手の近く（あるいは同じ病院）で就職したい	友人や交際相手の近く（あるいは同じ病院）で就職したい
合計点 (得点率)	212 (12.0%)	117 (10.9%)	20 (8.8%)	52 (18.4%)	29 (15.6%)
第4位	就職したい病院があった	就職直後はとくに家族などの支援を得たい	就職前に住んでいて生活に慣れている	就職したい病院があった	香川県の風土や文化が好き
合計点 (得点率)	209 (11.8%)	113 (10.5%)	19 (8.3%)	28 (9.9%)	16 (8.6%)
第5位	就職直後はとくに家族などの支援を得たい	就職したい病院があった	就職したい病院があった	香川県の風土や文化が好き	就職前に住んでいて生活に慣れている
合計点 (得点率)	177 (10.0%)	106 (9.9%)	18 (7.9%)	24 (8.5%)	13 (7.0%)

「住んでみたい場所にあること」(1.87±0.96),「将来異動が可能なグループ病院」(2.04±1.02)であった。重視した順に5位までを選択してもらい加点した合計点からみると、「香川県内にあること」632点 (13.8%),「実家から通えること」357点 (7.8%),「職員の雰囲気や人間関係」318点 (7.0%),「通勤のしやすさ」314点 (6.9%),「福利厚生」308点 (6.7%)の順であった(表2)。

2) 出身地と進学先（県内あるいは県外）別にみた傾向

まず、資格を取得した進学先を選択した理由について第3位までを選択してもらい加点した合計点では、4群すべてにおいて「将来の志望職業と一致している」,「自分の学力水準にあっている」,「合格の見込みがある」,「家庭の経済事情が許せる」が上位を占めていた。「県内出身・県内進学」は、「自分の学力水準にあっている」114点 (12.3%)や「合格の見込みがある」113点 (12.2%)より「通学に便利である」143点 (14.5%)が上位であった。

次に、香川県内に就職することを決めたことについて、時期は「県内出身・県内進学」では「就職活動時」と「高校生の時」がそれぞれ60名 (32.3%)と最も多く、次いで「大学等在学中」31名 (16.7%)であった。「県内出身・県外進学」は「大学等在学中」16名 (37.2%)が最も多く、次いで「就職活動時」13名 (30.2%),「大学等入学時」・「その他」がそれぞれ6名 (14%)であり、その他では結婚や地元に戻ってこなければならぬ事由の発生時があげられていた。「県外出身」は、進学先にかかわらず「就職活動時」が最も多く、県内進学30名 (58.8%), 県外進学21名 (53.8%)であった。次いで「大学等在学中」が多く、県内進学11名 (21.6%), 県外進学7名 (17.9%)であった。さらに「その他」が続き、県内進学4名 (7.8%), 県外進学6名 (15.4%)であり、その他では結婚が多かった。上位3位まで選択してもらい加点した合計点で理由をみると、「家族や友人の近くで生活したい」は、「県内出身」では県内進学357点 (33.0%), 県外進学89点 (39.0%)と進学先に

かかわらず第1位であり、「県外出身」でも県内進学54点 (19.1%), 県外進学50点 (26.9%)と進学先にかかわらず第2位であった。さらに「就職前に住んでいて生活に慣れている」もすべての群で第5位までにあげられていた。「就職したい病院があった」もすべての群で上位にあったが、特に「県外出身・県外進学」では57点 (30.6%)で第1位であった。「親のすすめ」が上位にあがったのは、「県内出身・県外進学」で20点 (8.8%)の第3位のみであり、「香川の風土や文化が好き」は「県外出身」が進学先にかかわらず上位にあげていた(表2)。

進路に関する相談相手は、出身地および進学先にかかわらず「母親」が最も多く、次いで「友人」であったが、「県外出身・県外進学」では、「高校や大学等の先生」9名 (23.7%)が第2位であった。また、進路選択のための情報入手で重視したものは、合計点からみると「県内出身・県内進学」は「オープンキャンパスやインターンシップ、職業体験」269点 (25.0%)が第1位であり、次いで「高校や大学等の先生」197点 (18.3%), 「ホームページ」194点 (18.1%)の順であった。「県内出身・県外進学」と「県外出身・県内進学」は「ホームページ」,「オープンキャンパスやインターンシップ、職業体験」,「パンフレット」の順であった。「県外出身・県外進学」は、「ホームページ」57点 (27.1%), 「パンフレット」52点 (24.8%), 「オープンキャンパスやインターンシップ、職業体験」42点 (20.0%)の順であった。

現在就職している病院を選択するときに重視した事柄について、第5位までを選択してもらい加点した合計点では、すべての群で上位にあげられていたのは「職員の雰囲気や人間関係」であった。また、「県内出身」は「香川県内にあること」について、県内進学443点 (16.5%), 県外進学133点 (21.6%)と進学先にかかわらず第1位であり、「実家から通えること」も上位にあがっていた。「県外出身・県内進学」では、「通勤のしやすさ」83点 (11.5%)が第1位であり、次いで「実習病

表3 出身地と進学先（県内あるいは県外）別にみた現在就職している病院の選択時に重視した事柄

	全 体 (n=305)	県内出身・県内進学 (n=179)	県内出身・県外進学 (n=41)	県外出身・県内進学 (n=48)	県外出身・県外進学 (n=37)
第1位	香川県内にあること	香川県内にあること	香川県内にあること	通勤のしやすさ	福利厚生
合計点(得点率)	632 (13.8%)	443 (16.5%)	133 (21.6%)	83 (11.5%)	62 (11.2%)
第2位	実家から通えること	実家から通えること	通勤のしやすさ	実習病院であり、病院のシステムなどがわかる	興味ある領域の実践
合計点(得点率)	357 (7.8%)	256 (9.5%)	55 (8.9%)	70 (9.7%)	57 (10.3%)
第3位	職員の雰囲気や人間関係	職員の雰囲気や人間関係	実家から通えること	職員の雰囲気や人間関係	給与
合計点(得点率)	318 (7.0%)	183 (6.8%)	54 (8.8%)	54 (7.5%)	45 (8.1%)
第4位	通勤のしやすさ		職員の雰囲気や人間関係	奨学金の免除条件	建物の新しさや設備の充実感
合計点(得点率)	314 (6.9%)	福利厚生／給与	45 (7.3%)	51 (7.1%)	39 (7.0%)
第5位	福利厚生		奨学金の免除条件	給与	職員の雰囲気や人間関係
合計点(得点率)	308 (6.7%)	178 (6.6%)	40 (6.5%)	38 (5.3%)	36 (6.5%)

院であり、病院のシステムなどがわかる」70点（9.7%）であり、「給与」38点（5.3%）も上位であった。「県外出身・県外進学」では、「福利厚生」62点（11.2%）が第1位であり、「興味ある領域の実践」57点（10.3%）が続いた。「奨学金の免除条件」を重視していたのは、「県内出身・県外進学」40点（6.5%）で第5位、「県外出身・県内進学」51点（7.1%）で第4位であった（表3）。

3）卒後年数別の推移

まず、資格を取得した進学先を選択した理由について、第3位までを選択してもらい加点した合計点では、卒後年数にかかわらず「将来の志望職業と一致している」、「自分の学力水準にあっている」、「家庭の経済事情が許せる」が上位を占めており、卒後年数による大きな変化はなかった。

次に、香川県内に就職することを決めたことについて、時期は卒後年数にかかわらず「就職活動時」が最も多く、次いで「大学等在学中」と「高校生の時」が多かった。上位3位まで選択してもらい加点した合計点から理由をみると、卒後年数にかかわらず第1位であった

のは「家族や友人の近くで生活したい」であり、次いで「就職前に住んでいて生活に慣れている」であった。「就職したい病院があった」は卒後年数が短いほど上位にあげられていた。また、「友人や交際相手の近くで就職したい」、「就職直後は特に家族などの支援を得たい」も上位にあげられており、「香川県の風土や文化が好き」は卒後1年38点（11.5%）で第5位、卒後4年38点（11.1%）で第4位であった（表4）。

進路に関しての相談相手は、卒後年数にかかわらず「母親」が最も多く、次いで「友人」と「高校や大学等の先生」が第2位あるいは第3位であった。また、進路選択のための情報入手で重視したものについて、第3位までを加点した合計点でみると、「オープンキャンパスやインターンシップ、職業体験」が卒後1年93点（28.7%）、3年106点（27.6%）、4年77点（21.8%）で第1位であり、卒後2年91点（21.1%）と卒後5年以上65点（19.7%）で第2位であった。「ホームページ」は、卒後2年104点（24.1%）と5年以上81点（24.5%）で第1位、卒後1年77点（23.8%）と卒後4年70点

表4 卒後年数別にみた県内就職を決めた理由

	卒後1年 (n=51)	卒後2年 (n=65)	卒後3年 (n=55)	卒後4年 (n=53)	卒後5年以上 (n=48)
第1位	家族や友人の近くで生活したい	家族や友人の近くで生活したい	家族や友人の近くで生活したい	家族や友人の近くで生活したい	家族や友人の近くで生活したい
合計点(得点率)	91 (27.6%)	123 (30.1%)	113 (31.4%)	108 (31.6%)	112 (33.9%)
第2位	就職前に住んでいて生活に慣れている	就職前に住んでいて生活に慣れている	就職前に住んでいて生活に慣れている	就職前に住んでいて生活に慣れている	就職前に住んでいて生活に慣れている
合計点(得点率)	56 (17.0%)	80 (19.6%)	69 (19.2%)	58 (17.0%)	68 (20.6%)
第3位	就職したい病院があった	就職したい病院があった	友人や交際相手の近く（あるいは同じ病院）で就職したい	就職直後はとくに家族などの支援を得たい	友人や交際相手の近く（あるいは同じ病院）で就職したい
合計点(得点率)	46 (13.9%)	52 (12.7%)	48 (13.3%)	40 (11.7%)	37 (11.2%)
第4位	友人や交際相手の近く（あるいは同じ病院）で就職したい	友人や交際相手の近く（あるいは同じ病院）で就職したい	就職したい病院があった	香川県の風土や文化が好き	就職直後はとくに家族などの支援を得たい／就職したい病院があった
合計点(得点率)	44 (13.3%)	51 (12.5%)	47 (13.1%)	38 (11.1%)	
第5位	香川県の風土や文化が好き	就職直後はとくに家族などの支援を得たい	就職直後はとくに家族などの支援を得たい	就職したい病院があった	
合計点(得点率)	38 (11.5%)	43 (10.5%)	36 (10.0%)	36 (10.5%)	28 (8.5%)

表5 卒後年数別にみた現在就職している病院の選択時に重視した事柄

	卒後1年 (n=54)	卒後2年 (n=72)	卒後3年 (n=62)	卒後4年 (n=57)	卒後5年以上 (n=60)
第1位	香川県内にあること	香川県内にあること	香川県内にあること	香川県内にあること	香川県内にあること
合計点(得点率)	98 (12.1%)	156 (14.4%)	112 (12.0%)	128 (15.0%)	138 (15.3%)
第2位	職員の雰囲気や 人間関係／福利厚生	通勤のしやすさ	実家から通えること	福利厚生	実家から通えること
合計点(得点率)		87 (8.1%)	83 (8.9%)	69 (8.1%)	71 (7.9%)
第3位		実家から通えること	通勤のしやすさ	職員の雰囲気や 人間関係	福利厚生
合計点(得点率)	72 (8.9%)	82 (7.6%)	79 (8.5%)	55 (6.4%)	67 (7.4%)
第4位	実家から通えること	職員の雰囲気や 人間関係	給与	給与	給与
合計点(得点率)	68 (8.4%)	69 (6.4%)	75 (8.1%)	54 (6.3%)	65 (7.2%)
第5位	教育環境の充実	実習病院であり、病院の システムなどがわかる	職員の雰囲気や 人間関係	実家から通えること	職員の雰囲気や 人間関係
合計点(得点率)	58 (7.2%)	67 (6.2%)	64 (6.9%)	53 (6.2%)	58 (6.4%)

(19.8%)で第2位であり、「パンフレット」が卒後3年65点(16.9%)で第2位であった。このように、「オープンキャンパスやインターンシップ、職業体験」、「ホームページ」、「パンフレット」が卒後年数にかかわらず第3位までを占めており、紙や電子情報と実際の体験を組み合わせ重視していた。「ツイッターなどのSNS (social networking service)」は、重視されていなかった。

現在就職している病院を選択するときに重視した事柄について、第5位までを選択してもらい加点した合計点では、卒後年数にかかわらず「香川県内にあること」が第1位であり、「実家から通えること」と「職員の雰囲気や人間関係」も上位にあがっていた。また、「福利厚生」あるいは「給与」も卒後2年以外の群では上位にあげられており、特に卒後4年と5年以上では両方が上位にあがっていた。さらに、卒後1年では「教育環境の充実」58点(7.2%)、卒後2年では「実習病院であり、病院のシステムなどがわかる」67点(6.2%)が、ともに第5位と上位にあげられていた(表5)。

考 察

香川県内の400床以上の病院に勤務し、就職後5年以内の看護師の進路傾向は、将来の志望職業、家庭の経済事情と学力水準のバランスをとりながら進学先を決定しており、「県内出身・県内進学」では学力より通学の便利さを重視していた。また、県内で就職することの決定は、「就職活動時」が4割程度であり、「高校生の時」を上回った。しかし、「県内出身・県内進学」では「高校生の時」と「就職活動時」の割合が同じであり、「県内出身・県外進学」と「県外出身・県内進学」では、「大学在学中」と「就職活動時」が同程度であったことより、進路決定の流動性をうかがうことができる。そして、県内就職を決めるときに重視したことは、「家族や友人の近くで生活したい」や「友人や交際相手の近くで就職したい」、「就職前に住んでいて生活に慣れている」であった。この

傾向は、就職するまでに生活に順応し馴染みの関係や場所を築いている地域の施設を選択する傾向があるという調査⁹⁾と同じ結果であり、安定した生活と人間関係という現在の生活の基盤を大切にしたいという傾向があると考えられる。さらに「県内出身・県外進学」での「親のすすめ」、進学先にかかわらず「県外出身」での「香川県の風土や文化が好き」は、出身地・進学先別にみて特徴的と考えられる。そして、5割以上の人が「母親」に進路について相談し、進路希望先での直接体験と電子媒体や紙媒体での情報を得て意思決定しており、先行研究¹⁰⁾と同じ傾向であった。

就職する病院の選択では、「香川県にあること」という立地条件、「教育環境の充実」を重視していたが、全体の合計点としては、「実家から通えること」と「通勤のしやすさ」という追加の立地条件、「職員の雰囲気や人間関係」が高い傾向にあった。「職員の雰囲気や人間関係」については、学生がインターンシップで得る情報のうち、就職先選定に有用と考える情報ととらえている¹²⁾ことと同様であった。また、「県内出身」では立地条件の重視、「県外出身」では福利厚生や給料が重視される順位が高かった。先行研究で示されている職場選択要因である「設置主体・病床数・診療科・看護の特徴・勤務体制が希望に合致している」⁴⁾、「看護の質」¹²⁾、「期待できるキャリア発達」¹³⁾は、「県内出身」と「県外出身・県内進学」では重視される順位で上位にあがっていなかった。これは、地元志向の学生の側面として、働く力の弱さ⁷⁾を示していると考えられることもできる。

以上のことより、大学として県内に学生を定着させるためには、入学時から香川県の風土や文化にふれながら地域に愛着を持てる機会の教育を通じた提供が最も重要となるだろう。このことにより県外出身者を引き留め、引き寄せることが可能となると考えられる。また、県内出身者にとっても、「就職活動時」に就職先を決定する学生も多いことから、大学在学中に継続的に地域に愛着を持つ機会の提供は有効と考えられる。そしてこの地域に

文 献

愛着を持つ機会の提供は、地域の住民や看護職者と連携して行う地域の健康課題解決への取り組みなど、看護学領域の専門性が活かせる方法を用いて行うことで、看護職として働く力を高めることも期待できる。一方、病院としては、就職希望者個々の出身地や進学先の情報を得ながら、説明内容を変化させるきめ細かい対応が求められている。“県内出身・県内進学”には高校生の時と就職活動時期に香川県の魅力も含めた説明を、“県内出身・県外進学”には母親を対象とした説明会を、“県外出身・県内進学”には生活の基盤を変えずに就職できるという魅力を、“県外出身・県外進学”には香川県の魅力と福利厚生を含めた労働条件の説明が有効と考えられる。さらに大学等と県内施設の連携では、学生の進路傾向や転職・再就職希望の動向などの情報の交換と共有により、変化の速い社会へ対応していくとともに、看護職が香川県内で生活し、専門職者として働く魅力をこれまで以上に創造し、社会に発信していく連携も必要となるのではないだろうか。

最後に、今回の調査では、卒後年数別では変化の傾向がみられなかった。その原因のひとつとして、今回の対象者の年齢構成の広がり、現在の就職先施設以外での就労経験などの多様な背景を持つことから、卒後年数での違いという属性では読み取ることができなかった可能性があると考えられた。

おわりに

香川県内の400床以上の病院に勤務し、就職後5年以内の看護師の進路傾向を調査し、特に出身地と進学先別の傾向を明らかにした。県立大学として、教育を通して、県内施設との連携のもと、学生が県内就職の魅力を実感する機会を提供しながら、地域が求める人材育成を充実させる必要がある。

謝 辞

本調査にご協力いただきました病院看護部と看護師の皆様様に深く感謝いたします。

なお、本研究は、平成27年度香川県大学等魅力づくり補助金の交付を受けて実施したものです。

- 1) 読売新聞記事. 人口減社会. 2015年5月29日.
- 2) 日本看護協会中央ナースセンター, 平成26年度ナースセンター登録データに基づく看護職の求職・求人に関する分析報告書. 1-13, 2015.
- 3) 原玲子, 竹本由香里. 看護師として病院に就職することを決定した看護学生のキャリア志向と職場選択に関する研究. 宮城大学看護学部紀要 14(1): 69-79, 2011.
- 4) 大井千鶴, 舟島なをみ, 亀岡智美. 看護基礎教育課程に在籍する学生の就職先選択に関する研究—病院に1年以上就業を継続できた看護師を対象として—. 看護教育学研究 18(1): 7-20, 2009.
- 5) 加藤里美. 大学生の企業選択—企業の社会的責任はどのように認識されているのか—. 日本経営診断学会論集 8: 128-133, 2008.
- 6) 加藤里美. 大学生の企業選択と価値観. 日本経営診断学会論集 9: 72-78, 2010.
- 7) 平尾元彦, 重松政徳. 大学生の地元志向と職業意識. 大学教育 3: 161-168, 2006.
- 8) 病院一覧 (平成25年6月1日現在), 2015-8-1, <http://www.pref.kagawa.jp/imu/iryoushouhou/byouinnitirann.pdf>
- 9) 多々納憂子, 平塚知子, 石橋照子, 狩野鈴子, ほか. 島根県西部地区出身看護学生の就職先選択要因に関する調査. 島根県立大学出雲キャンパス紀要 8: 47-56, 2013.
- 10) 北原佳代, 佐々木美樹, 岡部恵子. 職業選択に対する学生の考え方と親への相談状況との関係. つくば国際短期大学紀要 33: 121-139, 2005.
- 11) 宇城令, 塚本友栄, 井上映子, 春山早苗, ほか. 本学部卒業生の進路決定と就業継続に関する調査. 自治医科大学看護学ジャーナル 7: 89-97, 2009.
- 12) 本多和子, 鈴木恵. 看護学生が就職活動時のインターンシップで得た情報—就職先選定に有用だと考えた情報—. 横浜創英大学研究論集 2: 10-18, 2015.
- 13) 小口多美子, 種市ひろみ, 坂哉繁子. A看護系大学の第1期卒業生の職場選択要因の実態調査. 獨協医科大学看護学部紀要 5(2): 129-138, 2011.

受付日 2016年9月30日

受理日 2016年12月22日

